

村 絵 図



1990.1.20(土)~4.15(日) 埼玉県立文書館

開催にあたって

江戸時代から明治の初めにかけて、私たちの身近な地域、ほぼ現在の大字にあたる地域は「村」と呼ばれ、封建支配の末端組織として機能するとともに、一つの生活共同体としてその後も長く日本社会の基底構造をなしてきました。

いうまでもなく、この時代は土地に生活の基盤をおく農業社会であり、耕地の確保と村域の確定は、そこに住む人々はもちろん、彼らを支配した領主側にとっても最重要の課題でありました。このため、江戸時代を通じて土地をめぐるさまざまな絵図が作成され、大切に保存されてきました。

現在当館に収蔵されている史料の中にはこうした絵図が数多く含まれています。今回はそのうちから、江戸時代を中心に明治の初めまでに作成された「村絵図」を展示いたします。

村絵図は作られた目的により精粗の差があり、そのほとんどは現代の眼からみれば不十分なものですが、古文書とはまた違った側面から地域の歴史を生き生きと伝えてくれます。さらに村絵図は、その作成された目的をなれ、当時の景観——今では既に失われたもの、わずかに痕跡だけをとどめるもの、形を変えて現代に受け継がれているものなど——を示してくれます。この展示が、身近な歴史にふれ、地域を見直す手がかりになれば幸いです。

最後に、これら貴重な史料を提供していただきました寄贈・寄託者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成2年1月

埼玉県立文書館長

村田文生

会期

平成2年1月20日(土)～4月15日(日)

9:00～17:00

(休館日：月曜日、祝日、月末日)

村と村々絵図

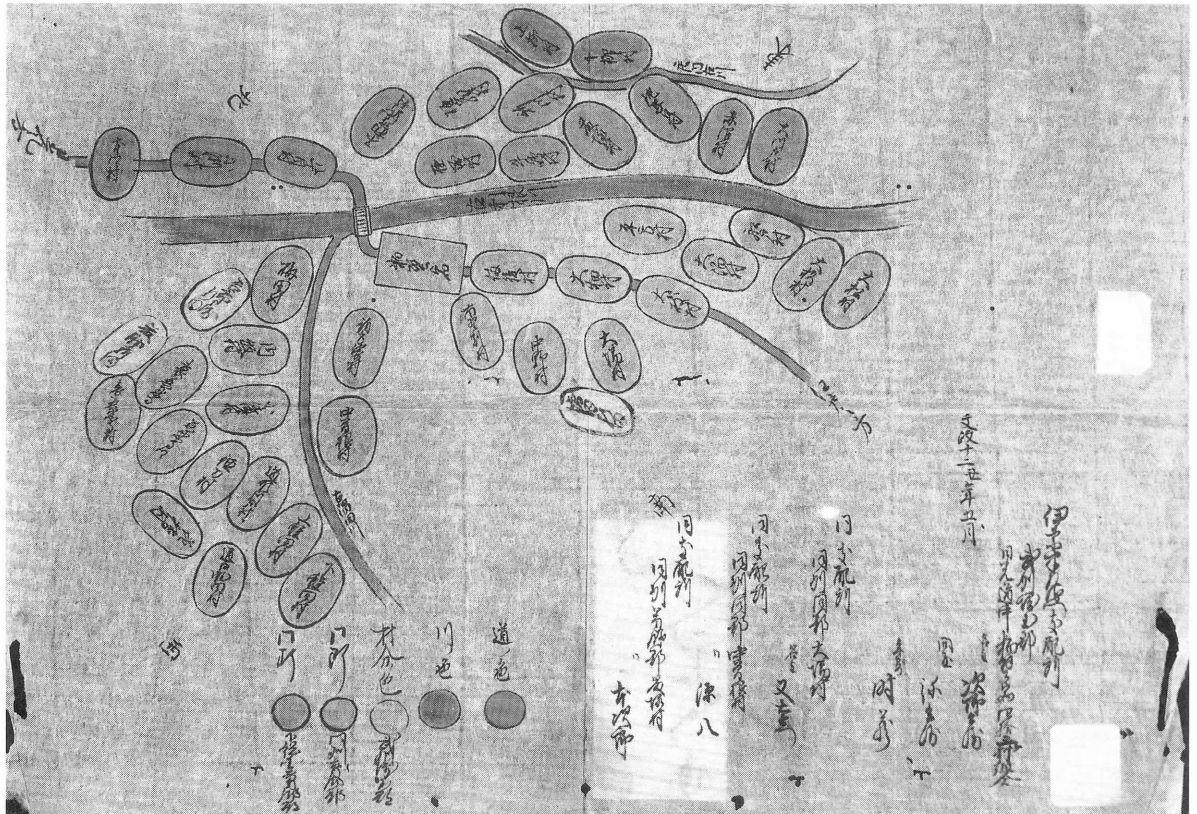
江戸時代の埼玉県域は、東京都や神奈川県の一部とともに武蔵国を構成し、元禄年間当時、その村数は16郡2,110村(但し、東京の一部を含む)から成っていました。

この村は時代とともに変容しますが、現在のほぼ大字に当たる区域で、人々の生活共同体であるとともに封建支配の末端組織としても機能し、年貢や諸役の賦課単位でありました。

これらの村々の位置関係やまとまりを示したものが、国絵図や村々絵図と呼ばれるものです。国境や郡境、あるいは村をこえた助郷や鷹場の領域、山野・用水の利用範囲、改革組合村等特定のまとまりをあらわすことに主眼があるため、そのほとんどが村名のみで、村絵図のような具体的景観描写に欠けていますが、当時の村の規模やつながりの仕方がわかるだけでなく、近世の村が一面では連合体として存在していたことをよく伝えてくれます。

文政改革により成立した組合村

日光道中粕壁宿四拾三ヶ村組合絵図 中島家269



組合村とは、江戸幕府が文政改革で実施した関東地方の村方治安維持組織で、文政10年(1827)に設置されました。幕府領・私領・寺社領の別なく近隣村々数十ヶ村をもって組織され、中心となる村を寄場村といいました。

村絵図いろいろ

村絵図とは、村域と村境、いわば封建支配の末端組織としての行政村についての全体の様子を表わした絵図といえますが、その作られた方法により大きく①特定の場所の位置・状況を表わすために村全体を描いたもの②初めから村全体の概況を表わすために作成されたもの二つに分けることが出来ます。

山・水・境など村落間の争いやその裁許の際に作られた絵図や、村秩序を維持するために作成された議定絵図などが前者の代表的な例です。土地に対する権利関係が鋭く問われているので、比較的精細に描かれているものが多いことに特徴があります。このほか、寺社領や除地改の絵図、普請場絵図等、村絵図というより部分絵図に近いものもあります。

後者はどちらかというと領主側の要請によって作成されるものが多く、代官や領主の代替りの際に提出された絵図、幕府巡見使や見分に先立って作成された絵図などがあります。前者に比べ、村の概況が把握出来れば事が足りるので、村境、川、堀、道、田畑、山林の状況や高札場、顕著な建造物の位置等が大体わかる程度のものであり、鹿絵図の名称が付されているものも多くあります。

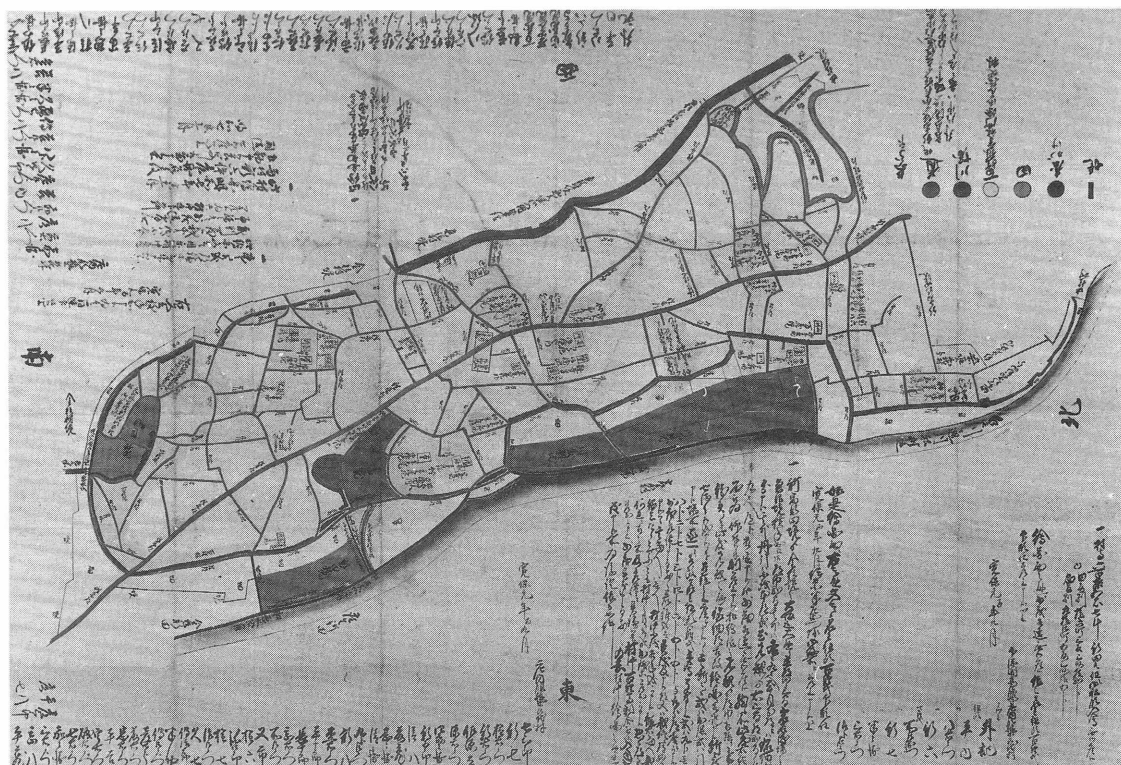
また、後者のうち当館収蔵史料の中で特異な存在を示すのが天保7年6～8月の年紀をもつ小絵図群です。いずれも天保国絵図作製に伴い提出されたものと思われ、同時期の村落研究に貴重なものといえます。

裁許・議定絵図

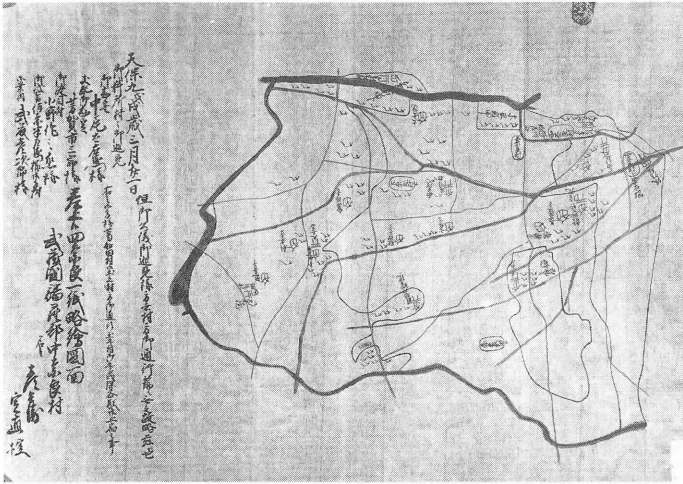
下総国葛飾郡庄内領築比地村

(現松伏町)道巾議定絵図 鈴木(宗)家12

寛保元年(1741)に伊奈半左衛門役所あてに提出された絵図の写しです。争論の結果作成されたものではなく、今後異議が出ないよう村人たちが連署して道幅を確認したものです。明和7年(1770)の写しを、嘉永6年(1853)に再度写したもので、村人への取り極めが長く守られてきているのがわかります。



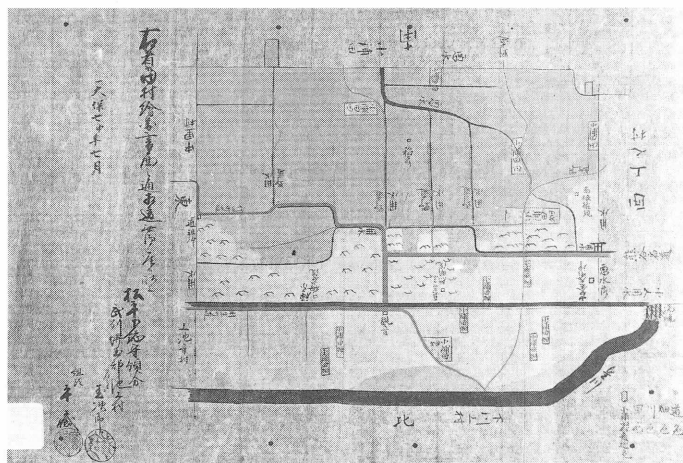
巡見・見分差出絵図



江戸幕府の直轄地は御料または天領とも呼ばれ、幕府の経済的基盤をなしていました。この御料を監察したのが、国々御料所村々巡見使であり、正徳2年(1712)から勘定・支配勘定・徒目付の三人一組で一斉に派遣されるようになりました。延享2年(1745)からは將軍の代替りごとに派遣され、この天保9年(1838)まで続けられました。

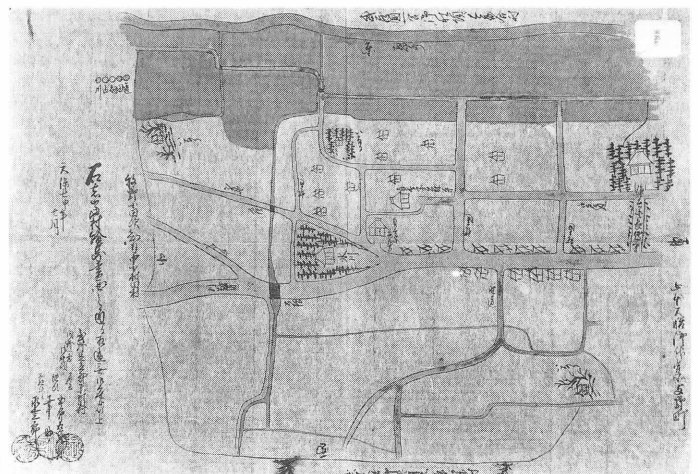
こうした巡見使が派遣されるごとに、幕府領では村絵図が事前に作成され、役所に提出されたのです。この場合は、巡見使が村内を通行しないため、上奈良村・中奈良村・下奈良村・奈良新田の4村を一紙に略絵図としてまとめてあります。

四奈良一紙略絵図 野中家8037



天保小絵図

埼玉郡池上村(現熊谷市)絵図 東家154



足立郡下小村田村(現与野市)絵図 西角井家5233

各地の村絵図

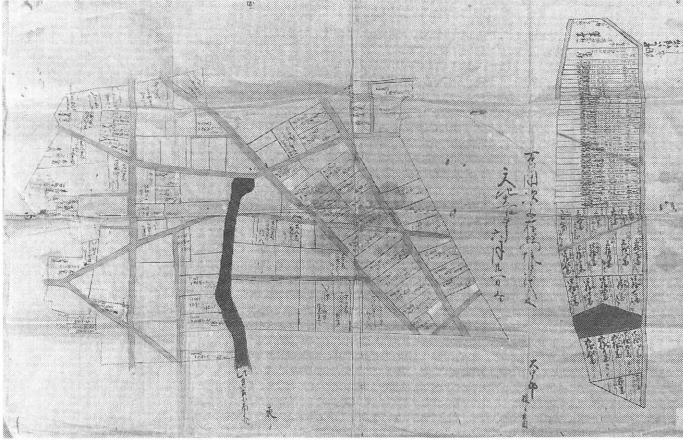
村絵図は、本来それぞれ目的をもって作成された訳であり、その意味では図に書かれた文字や添付された文書と一体となって、一つの歴史史料として私達に地域の歴史を語りかけてくれます。

しかし、村絵図は作られた目的が何であれ、そこに描かれた様子や景観は私達により多くの情報を与えてくれ、当時の村の案内図となってくれます。

このコーナーでは、県内各地に残されたさまざまな村絵図を展示します。山にかこまれた村、川や用水と密接に関わりをもつ村、新田開発により新しく生れた村など、県内各郡各村には、それぞれの景観があり、それぞれの歴史がありました。

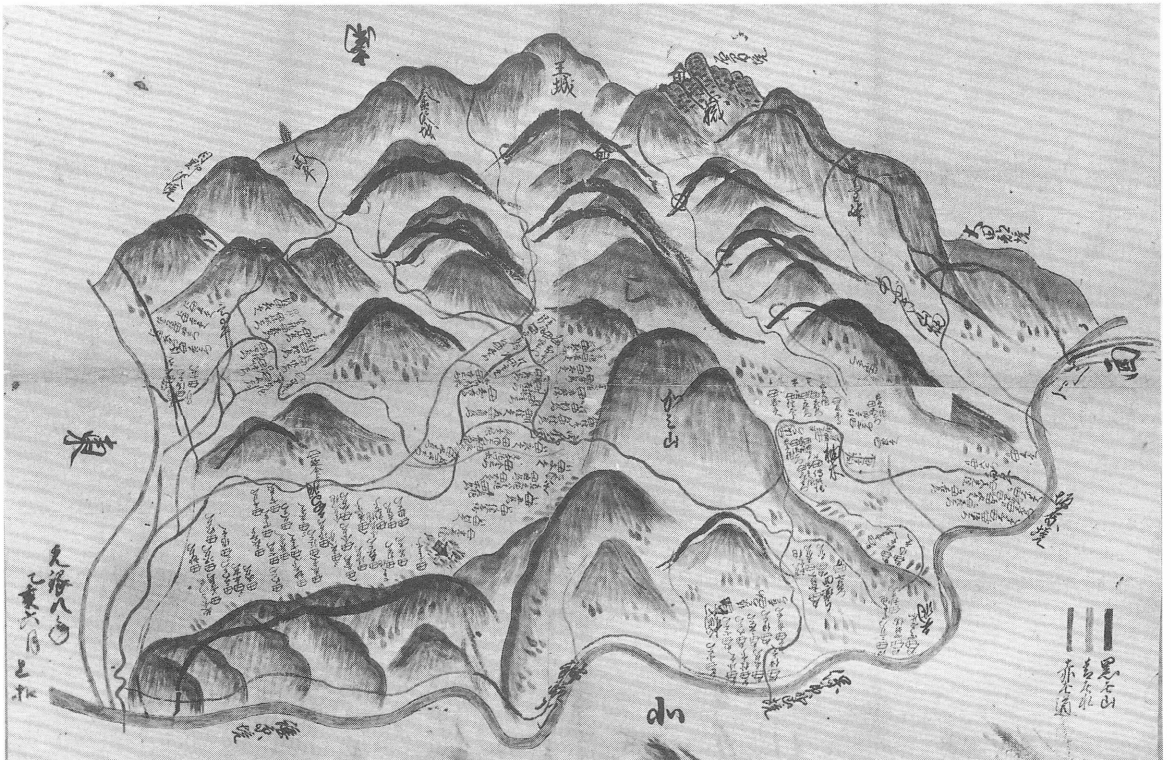
わたしたちの生まれた村、わたしたちの今住んでいる村が、江戸時代どういふ所でありどこがどう変わってきているのか、地域の歴史や様子に少しでもふれてみましょう。

新田の村



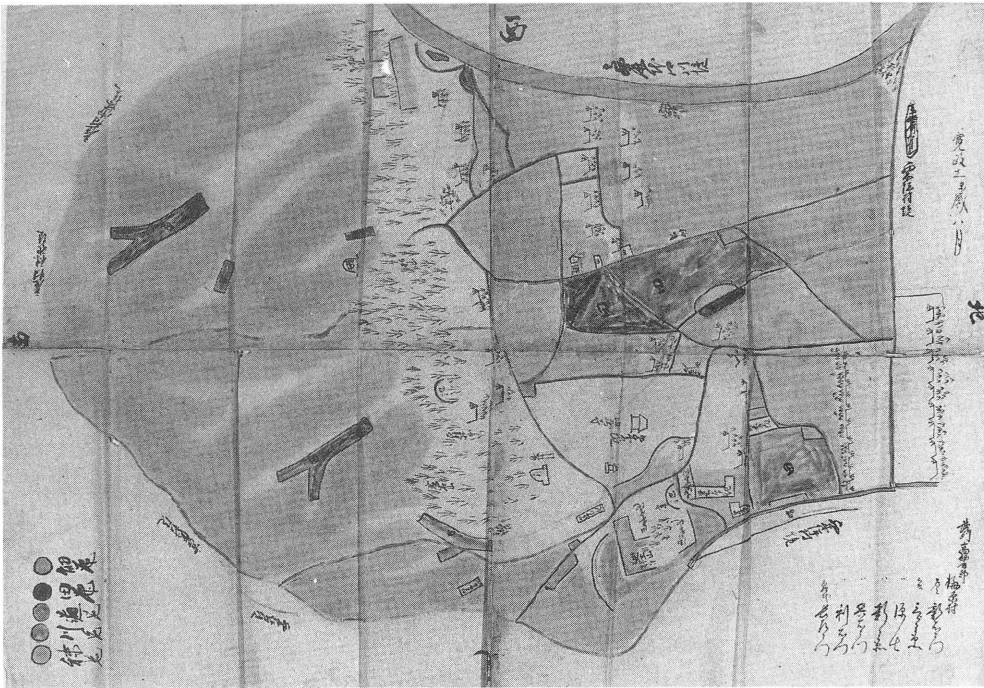
大里郡樋ノ口新田(現江南町)耕地絵図 平山(小)家1899

平地のない山中の村



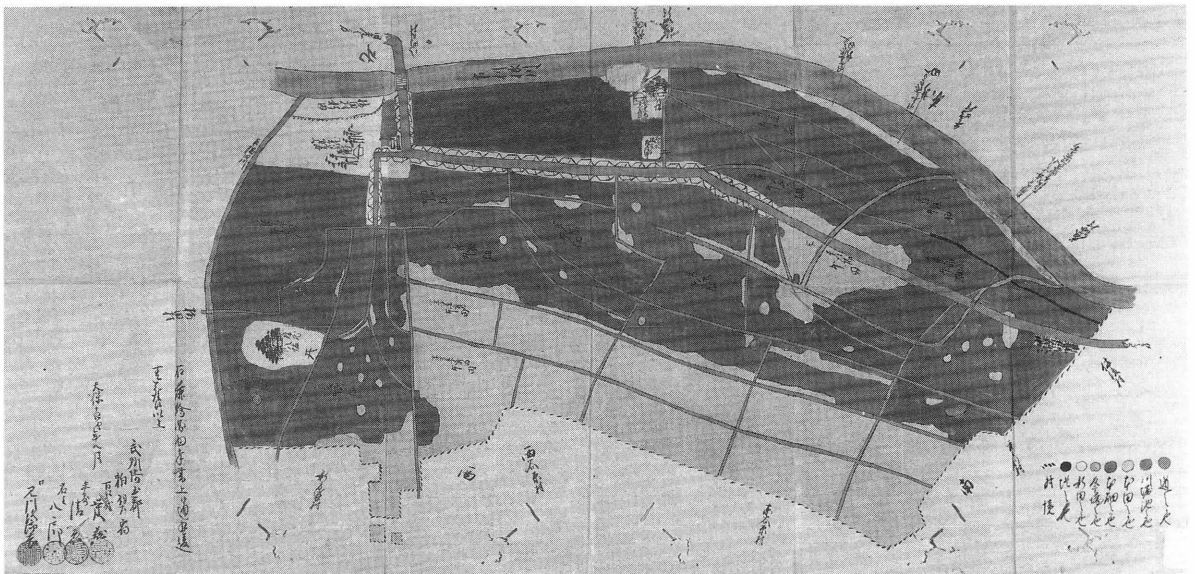
秩父郡矢納村(現神泉村)絵図 川鍋家4

まくさ
秣野を背後にもつ台地と丘陵の村



高麗郡梅原村(現日高町)絵図 堀口家1697

道沿いに屋並がつづく宿場町



柏壁宿(現春日部市)亀絵図 中島家285

村絵図の作成

村絵図には、天保小絵図のような小型のものから縦横1mを超える大型のものまでさまざまなものがあります。またその用紙も細川紙や西の内などの種類があり、それを大小に応じて継ぎ合わせて仕立てています。内容についても精粗の差があります。

こうした近世の村絵図は、公の村絵図として差出した場合はすべて村役人の連名捺印のあるのが特徴です。この場合、絵図を直接描いた者の銘記がないのが普通で、一般的には恐らく村役人か或は村内で絵をかくことに秀れた者がその任に当たったものと思われます。

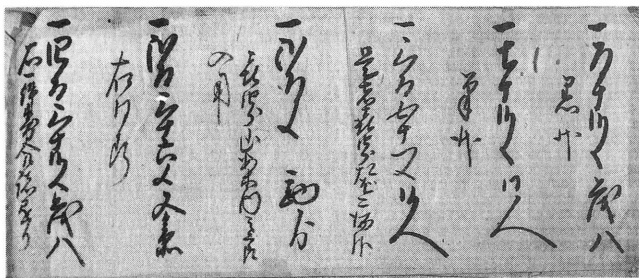
しかし、重要な絵図、例えば争論に際してのもの等正確を期するものについては、双方ともに絵(図)師或は絵図工という専門の技術を持った者を雇って作成しています。例えば、寛政8年(1796)の平村の場合、紙・筆・墨代とともに絵図工の手間賃や世話賄料が計上され、その費用が家がけ、高がけされています。

絵図師としては、入間郡津久根村源兵衛、足立郡大間村福島幸八、大里郡久下村久七、高麗郡双柳村新井新兵治等の名がみられますが、その実態については余りよくわかっていません。

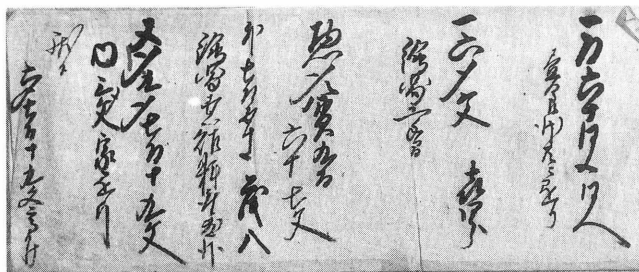
寛政8年(1796)平村(現都幾川村)の絵図作成費用は



一百文	喜八
細川巻状	
一五百文	同人
西の内百枚	
一百文	勘右工門
絵之く代	
一廿四文	喜四郎
絵のく代	
一十六十四文	喜八
絵のく代	
一五百文	茂八
細川五状代	



一十式文	茂八
墨代	
一七十式文	同人
筆代	
一三百五十一文	同人
是者喜四郎たばこ酒代	
一式百文	勘右工門
喜四郎山案内之節	
入用	
一式百三十六文又兵衛	
右同断	
一四百三十式文茂八	
右一件寄合諸懸り	



一十六貫文	喜四郎
絵図工手間	
惣六貫七十九文	
惣六貫七十九文	
六十七文	
外七百五十文	茂八
絵図せハ賄料座敷代	
又六貫七十九文	
内三貫文家懸引	
残而	
六貫七十九文高かけ	

村絵図被仰候ニ付認諸掛帳 大野家240

展 示 文 書 目 録

文 書 名	年号 (西暦)	文 書 番 号	
村と村々絵図			
紀州御鷹場村絵図		会田家	1924
紀州様御鷹場村々絵図	文化4 (1807)	〃	1946
尾張様御鷹場村々絵図	文政5 (1822)	〃	1953
組合村絵図	慶応4 (1868)	浅見家	1494
神流川流域村々絵図		新井家	3294
武蔵奥地区		中島家	252
幸手領村絵図		〃	262
日光道中粕壁宿三拾三ヶ村組合村絵図	文政12 (1829)	〃	269
粕壁宿助郷村絵図	嘉永4 (1851)	〃	274
中山道大里郡熊谷駅助郷村々絵図	天保7 (1836)	野中家	8203
北組37村南組22村組合絵図	天保7 (1836)	〃	8206
川越藩領村絵図	嘉永6 (1853)	林家	6993
八丁付近用悪水図		武笠(寛)家	1210
秩父一郡絵図		森田家	8069
村絵図いろいろ			
足立郡下野田村大門町芝間訴訟裁許絵図	延宝7 (1679)	会田家	1941
足立郡染谷新田絵図	享保2 (1716)	〃	1936
榛沢郡田中村北根村地境立合絵図	寛文13 (1673)	宇野家	2079
埼玉郡上平野村絵図	寛政3 (1791)	篠崎家	4296
埼玉郡上平野村絵図	天保3 (1832)	〃	4292
築比地村道巾議定絵図	嘉永6 (1853)	鈴木(宗)家	12
御巡見ニ付絵図書上扣帳	天明8 (1788)	銚子口区	662
利根川通堤川除普請争論裁許絵図	貞享4 (1687)	長鳴家	3013
八木田村道ヶ谷戸村地境争論裁許絵図写	延宝4 (1676)	〃	3014
利根川通堤川除普請争論裁許絵図	貞享4 (1687)	中村家	258
足立郡新開村普請所絵図	天保7 (1836)	西角井家	5243
箕輪甲山両村大積り絵図	享保14 (1729)	根岸家	3692
甲山村分郷ニ付絵図面書上	天保2 (1831)	〃	3686
御炭山御林見分ニ付絵図	明和6 (1769)	野口家	1584
四奈良一紙略絵図	天保9 (1838)	野中家	8037
玉河領角山村絵図	万治2 (1659)	林家	7020
比企郡大谷村岡郷論所立会絵図	安永7 (1778)	〃	6995
平須賀村神扇村境裁許絵図	正徳4 (1714)	船川家	2250
横手村瀧泉寺炭釜山瀧泉寺高麗本郷村立会絵図	正徳3 (1713)	堀口家	1700
上木崎村絵図	天保2 (1831)	武笠(寛)家	1214
大野村御炭山反別絵図	宝暦11 (1761)	森田家	8068
御支配替御用一件覚	天明8 (1788)	〃	2530
大野村御林絵図	文政2 (1819)	〃	8071

文 書 名	年号 (西曆)	文 書 番 号
大野村荒地亀絵図	嘉永6 (1853)	森田家 8057
横根村笹久保村同新田亀絵図	文政12 (1829)	吉田(佐)家 2085
埼玉郡横根村絵図		" 2112
論所田地絵図	宝暦6 (1756)	若谷家 1277
——天保小絵図——		
御用留帳	天保7 (1836)	新井(仇)家 50
差上申一札之事 (武蔵国絵図調ニ付)	"	若谷家 1091
横見郡久保田村絵図	"	新井(仇)家 6158
足立郡新兵衛新田絵図	"	飯島(徳)氏 766
足立郡羽貫村絵図	"	加藤家 2241,2440
	"	" 2444
男衾郡野原村絵図	"	杉田家 827,831
足立郡下小村田村絵図	"	西角井家 5223,5233
足立郡上落合村絵図	"	" 5224
足立郡新開村絵図	"	" 5234~5239
埼玉郡・大里郡・幡羅郡内各村絵図	"	東家 154~174
高麗郡梅原村絵図	"	堀口家 1695
榛沢郡荒川村絵図	"	持田(英)家 901
足立郡高畑村絵図	"	若谷家 1274
各地の村絵図		
埼玉郡葛梅村絵図	天明7 (1787)	相沢家 183
秩父郡太田部村絵図	延享3 (1746)	新井家 3295
秩父郡太田部村絵図	文政9 (1826)	" 3310
秩父郡太田部村絵図	天保4 (1833)	" 3311
横見郡久保田村墨引亀絵図	文化10 (1813)	新井(仇)家 6161
入間郡内各村絵図		井上家 465~481
足立郡羽貫村絵図	元禄11 (1698)	加藤家 2200
秩父郡矢納村絵図	元禄8 (1695)	川鍋家 4
下総国葛飾郡下柳村亀絵図	天保9 (1838)	小林家 2611
比企郡番匠村絵図	安政2 (1855)	小室家 4622
武葛甲第九区西大輪村絵図	明治4 (1871)	白石家 5942
高麗郡脚折新田地引絵図	天保12 (1841)	田中家 1281
高麗郡臈折新田絵図	天保14 (1843)	" 1286
粕壁宿亀絵図	天保14 (1843)	中島家 285
幡羅郡小嶋村三給一紙絵図	元禄11 (1698)	中村家 259
比企郡大塚村亀絵図	明治2 (1869)	根岸家 3621
北河原村絵図	元禄11 (1698)	長谷川家 1390
下総国葛飾郡上金崎村田畑亀絵図	天保14 (1843)	土生津家 6197
比企郡玉川領大塚村絵図	元禄3 (1690)	林家 7021
比企郡大塚村絵図	文化元 (1804)	" 7023
大里郡樋ノ口新田耕地絵図	文化11 (1814)	平山(小)家 1899

文 書 名	年号 (西暦)	文 書 番 号
高麗郡梅原村絵図	寛政11 (1799)	堀口家 1697
村絵図	寛政6 (1794)	武笠(寛)家 1797
榛沢郡荒川村絵図	天保7 (1836)	持田(英)家 882
秩父郡大野村絵図	元禄15 (1702)	森田家 8067
村絵図の作成		
村絵図雛形		浅見家 1481
村絵図江書載候品々并色分ヶ覚		新井家 860
村絵図被仰候ニ付認諸掛帳	寛政8 (1796)	大野家 240
村絵図雛形		加藤家 2223
村絵図雛形 (何村字訳絵図)		田中家 1355
御絵図廻間帳	元禄9 (1696)	平山(小)家 310
米請取覚帳絵図賄入目帳	元禄9 (1696)	〃 311
村絵図雛形		諸井家 856
※会期中、史料保存のため随時展示替を行います。		

新 収 蔵 文 書 展 示 目 録			
番号	文 書 名	年号 (西暦)	文 書 番 号
1	柴岡熊吉借入金証文	明治10年 (1935)	小沢氏収集文書
2	田代栄助借入金証文	明治11年 (1936)	小沢氏収集文書
3	藍玉通帳	明治30~33年 (1897~1900)	飯塚家文書
4	白赤質春蚕飼方実際日表	明治15年 (1882)	飯塚家文書
5	古文孝経参疏	寛政元年 (1789)	天野氏収集文書

表紙写真

元禄3年(1690)に描かれた比企郡大塚村(小川町)の絵図。大塚村は外秩父山地の東縁部に当たり、槻川・兜川流域の小川盆地に位置しています。点在する民家、村の中央を走る大道、谷間の溜池、用水に灌漑される平地の田などがみとれます。